

令和4年度幼稚園学校評価（出雲市立西野幼稚園）

分野	評価項目	評価の着眼点	自己評価		学校関係者評価	評価結果を踏まえた今後の取り組み
			達成及び取組状況	評価		
教育課程・指導	①学年・学級経営	教職員は、教育目標の達成を目指した学級経営を行っているか。	年度当初の職員会議で幼稚園の教育目標や研究の取組などについて職員間で共通理解し、学級経営案を作成している。幼児の実態を捉え、毎月、指導計画や週案を作成して保育を行い、日々の保育がめざす幼児像につながっていくよう反省評価を行っている。	3	3	教育目標を踏まえ各学年の発達や実態に合った経営案を作成できた。その時期の活動や子どもの様子から、経営案を見直しながら具体的な指導計画を作成するようにならなければならない。そのため職員間の話し合いや園内での研修など引き続き取り組んでいきたい。
	②幼児理解	教職員は、一人一人の幼児の発達の姿から課題を捉えて保育を行っているか。	幼児理解に向け研修計画をしっかりと立て、1学期から各学級の保育の記録日を入れて教員同士が互いの保育を見合ったり幼児の記録を取ったりした。また、幼児教育指導員などを講師に園内研修を実施し、幼児の姿や内面の読み取り、援助の仕方などが学べた。	4	4	今年度、援助が難しい園児の対応について専門の指導員の指導や園内研修を通して学ぶことができた。また、公開保育では地域の方、小学校長などからも意見をいただき多面的な捉え方に気づくこともできたと思う。保育はまず幼児理解から始まるので今後も研鑽を深めていきたい。
	③特別支援教育	特別な支援を必要とする幼児の実態や課題を明確にし、計画的・組織的に指導を行っているか。	・支援が必要な幼児や気になる子どもについて、入園前に保健師と情報共有し必要があれば保育幼稚園課に加配教諭の配置を要望している。また、定期的に市の巡回相談を受け適切な支援ができるよう指導を受けている。保護者の理解が得られれば、保護者と園で支援ファイルを作成し指導の手立てとしている。支援ファイルは就学先に送付し、親子で安心して就学に向かえるようにしている。	3	3	今年度も、発達が気になる子どもや外国籍の子どもを含んだ学級経営で困難なことも多かったが、子ども一人一人に適した援助や保育環境を全職員で共通理解しながら取り組むように努めた。小学校と連携を密にしたり、就学に向かって支援ファイルを作成したりして、スムーズな就学に配慮するとともに、保護者へも就学後の生活の理解を深めるため学校見学など伝え、実施してもらった。特別支援教育において、特に保護者理解の大切さを感じている。
	④人権・同和教育	教職員は、自らの人権感覚を磨き、幼児に人権意識の芽生えを培うように配慮しているか。	幼稚園教育に同和教育を基底に据えて取り組んでいる。子どもたちの生活の中で、場面を捉え気づいたり考えたりするよう指導している。職員は園内研修や市の研修など参加し、人権意識を高めるよう努めた。伊波野地区の地域指定事業を受け、学校部会で小学校や保育園と連携を図ったり、地域の研修会への参加や啓発指導員の園山哲男氏を講師に迎え保護者研修会を実施する等、計画的に取り組んだ。	4	4	地域指定の同和教育の取組が2年目であり、園内研修や職員研修、保護者研修など園山哲男氏の指導や地域の方との交流を通じ、学びを深めたり自分自身を振り返りながら子どもと向き合ったりすることができた。地域指定の取組が終わっても、日々積み重ねていくことが大切であるので、職員、保護者と共に引き続き取り組んでいきたいと考える。
	⑤行事	教職員は、行事を幼児の発達を促す機会と捉え、工夫、改善しているか。	新型コロナウイルス感染症対策を行い、分散して保育公開を実施したり運動会や発表会は時間短縮、参加人数の制限をして開催したりした。また、今年度は新たに作品展を実施し、保護者に子どもたちの表現活動について理解を深めることができた。行事は、日々の保育の積み重ねで子どもたちに身に付いたことや心の成長を感じてもらえるように、クラスだよりで知らせるなど工夫した。	4	4	今年度も保護者アンケートの方では「そう思う」「だいたいそう思う」の回答を多くいただいた。各担当が、行事に向かう子どもの姿や成長、大切に育んでいることなどをタイムリーに伝えたことは、保護者理解につながっていると感じる。今後も、子どもたちが身に付けようとしている資質・能力について、日々の活動が繋がっていることなど学級だよりや懇談会などを通して知らせていきたい。
	⑥保幼小連携	近隣の小学校等との連携を密にし、なめらかな接続に努めているか。	今年度も、小学校や近隣の保育園と、児童や園児の交流は実施が難しくできなかった。園内研修で4歳児学級が保育をした時には、小学校長に参加していただくことができた。また、西野小学校からは、2名の先生が異校種間交流で来園し保育を体験され、幼稚園教育や園児の理解や連携を深めることができた。	3	3	同和教育の取組で、学校教育部会を立ち上げ連携を図ることが出来たので、このつながりを大切にしていきたい。交流活動については、実施内容の工夫や感染対策が必要であるが、互いに意見を出し合い良い関係性の構築や連携を図っていきたく考える。
家庭・地域との連携	⑦家庭・地域との連携	幼稚園と保護者、幼稚園と地域（未就園児等）との協力関係はできているか。	保護者はとても熱心で、新型コロナウイルス感染症対策や環境整備、保育活動についてのお願などに対しても協力的である。また、感染対策をしながら、阿宮畑谷川遊び、里山探検、焼き芋体験など豊かな体験活動を通して地域の皆さんと交流ができた。未就園児教室「にこにこ広場」はコロナ禍で参加人数が少なかったが、季節ごとの遊びや給食試食体験など内容を工夫して実施した。	3	3	保護者、幼稚園、地域との連携について工夫しながら取り組むことができたが、コロナ禍になり保護者主催の行事『ゆうべのつどい』が3年間中止になっていることや降園時の園庭開放も実施していないことなどから、保護者同士のつながりを希薄に感じる保護者が増えつつある。令和5年度には保護者と相談しながらかわりを深めることができるようになっていきたい。
研修	⑧研究・研修	教職員一人一人が、園内外の研究・研修の機会を自己研鑽の場として受け止め、進んで研究・研修に取り組んでいるか。	同和教育を基底に据えた研究の取組と研修計画を立て、全職員で取り組んだ。また、園内研修や出雲市幼稚園教育研究会等の研修に積極的に参加し保育の質の向上を図ることができた。特に同和教育を視点に置いた園内研修では、幼児の内面を理解するような話し合いや、啓発指導員の園山哲男氏の講話などを通して研鑽に努めた。	4	4	市幼研主催の研修や地域の同和教育の研修など、職員一人一人が積極的に参加した。研修後は、復命し職員同士で共通理解を図るなど、活かしていくよう努めていきたい。
組織運営	⑨園務	教職員は、他教職員と協働し、計画的に園務を遂行しているか。	今年度は長期休暇を取る職員の補充が無い状況であったが、分掌を補ったり自分の担当ではない園務であっても気が付けば取り組んだりし、支障なく園務を進めることができた。	4	4	休暇取得中の職員の補充が無い分、職員全員で協力して分掌や行事の担当などを進めることができた。年度途中の代替職員の配置についてはなかなか見つからないことが多く、引き続き保育幼稚園課に対策を含めて要望していきたい。
安全管理・保健管理	⑩危機管理	園の危機管理及び幼児の安全や衛生の管理体制を全教職員が理解し、適切な対応に努めているか。	・保護者への緊急連絡は、メールを利用しメール配信している。メールをきちんと確認してもらうように周知を徹底している。 ・避難訓練や交通安全教室など年間計画を作成、実施し、園児や職員に防災への意識が高まるように努めた。浸水時の避難については避難場所である西野小学校まで歩き園児に指導した。	3	3	保護者に対して配信システムの啓発を行い、確認や見落としが無いように周知する。連絡等の周知が徹底するよう今後も気を付けた。園児の安全のために訓練等の計画的な実施を今後も続けていく。
教育環境整備	⑪園地・園舎・遊具等の施設・整備	園地・園舎・遊具等の施設・設備を定期的に点検し、必要な改善・管理を行っているか。	・毎月、安全点検を行い必要に応じて修繕したり危険な箇所は施設課に報告したりして、園児の安全な生活確保を行っている。今年度は、太鼓橋とブランコを修繕、塗装してもらい、子どもたちはきれいになった遊具で遊ぶのを喜んだ。 ・園庭や駐車場は、保護者や地域の方の協力を得て環境整備に努めている。	3	3	園舎内外問わず老朽化し、修繕が必要な箇所があるため、引き続き修繕を要望していきたい。遊具の安全な使い方等を指導すると共に、日頃から安全面について注意して点検していきたい。

※評価基準 4：十分達成している 3：概ね達成している 2：改善を要する部分がある 1：大いに改善を要する